

J Aいわて平泉 コミュニティー紙 2025秋 第25号

そ~じゃ*い~じゃ

So~JA*E~JA

消費者×生産者×地域×JAをつなぐコミュニティー紙

秋冬のお部屋に彩りを



J Aいわて平泉
マスコットキャラクター
このみん

冬を代表する華やかな鉢植えとして人気の高いシクラメン。美しい花姿と豊かな色彩は、多くの人に親しまれています。

J Aいわて平泉管内では、シクラメンなどの鉢花も生産しています。10月下旬から12月中旬まで、県内や東北、首都圏の市場に出荷されます。クリスマスシーズンには出荷最盛期を迎えます。

初心者でも気軽に楽しめるシクラメンで、秋冬のお部屋を美しく彩ってみましょう。



ころころにここ ～おだんごの思い出～

一関市立一関東中学校 3年 千葉 心遥 さん



最後の挑戦なので、今までお米と関わった中で楽しかったことを描こうと、弟とお団子を作った思い出を絵にしました。笑顔と温かさが伝わるように表情に力を入れました。8年連続で最優秀賞をいただけたことを光栄に思います。



田んぼの生き物観察

一関市立一関小学校 3年 林 空我 さん



スマホを見ていたら、イネを虫たちが守っていることを知り、イネを守ってくれる虫たちを観察している様子を描きました。イネが生き生きとしているところを工夫しました。今回、最優秀賞でとても嬉しかったです。



令和7年度「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール

みんなのよい食プロジェクト

審査結果

～J Aいわて平泉審査会～

J Aグループは「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、「ごはん・お米とわたし作文・図画コンクール」を実施しています。これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作り上げてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうことが狙いです。

子どもたちが、毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現しています。

今回は、J Aいわて平泉管内で応募のあった作品の中から入賞作品と受賞者の皆さんをご紹介します。



みんなでぞだてた大切なお米



田んぼを見た時「お米の花が咲いてきれいだな」思ったことや7・8月に雨が降らなくて心配したこと、実際にお手伝いをして感じたことを書きました。夏休みに一つに絞って書いた作文が、良い賞をとれてとてもうれしいです。

夏休み。おじいさんといっしょに田の見回りに行きました。五月にぼくたちが手伝ったうえたイネが大きくたつていました。ほの先を見る小さな花がたくさんさいています。「米の花は白くてかわいね」とぼくが言うと、妹が「キラキラ光っていて、まるでいみたいだね。」と言いました。
次の日には、花がふえていました。ほの先に、なにかついています。よく見ると、それはカメ虫の赤ちゃんでした。小さくすく通っていて、かわいけれど、ほについていてはだめだと思っていました。田の中に入ってどうしたら、手で「一つ一つ」のほは、むずかしいよ。せつかくさいている花にも、きずがつくからね。」と言われました。「それなら、くすりをかけるの。」と聞いたら、「花がさく時には、くすりをかけられないんだよ。さきおわたからだね。」と言われました。花がさきおわた、風のない日の朝早くにおじいさんとお父さんがくすりをかけました。



お米作りから感じたこと



田んぼの生き物が好きなので昔ながらの風景を守っていきたいという気持ちを作文にしました。ごはんも大好きで、今一度お米作りについて考える機会になりました。自分の気持ちを表現することができて良かったです。

今、イネは黄色くなって、頭を下げています。よく見ると、イネが少し黄色いになっているところがありました。雨がほとんどふらないので、畑も田もすっかりかわいて、地われが出ています。畑のやさいと同じように、イネもそれそうなのかもしれません。おじいさんが「今までは「花さきおわらば水おろせ」と言われていたが、今年の日では、じんじょうではいけないなあ。」と言いつつ、あちこちポンプをいじりながら、水から水をくみ上げて田んぼに入っていました。家にある四つのつみの水は、すっかりなくなり、その見えるようになっていました。
今、田は金色に輝いて、とてもきれいです。
もうすぐ九月。イネかりには、おじいさんやいとこたちが、手伝いに来ます。ぼくも妹も、イネはこびをがんばります。みんなといっしょにぞだてた大切なお米だからです。

一関市立花泉中学校 3年 山本 慶子 さん

待ちに待った稲刈りの時期になる。私が手で田植えをしたころは、稲刈り鎌で稲刈りをして、はせ掛け天日干しをする。そして、なんと祖母の家に昔ながらの足踏み脱穀機ととうみがある。私は特に足踏み脱穀機を使うのが好きだ。祖母の歌う民謡に合わせてリズムよく脱穀するのが、稲刈り後の一番の楽しみにしている。このような昔ながらの農具や、稲作風景も大事にしていきたいと思っています。
こうして、できた新米を口にしたいときは新米ならではの香りとふわっとした食感を味わうことができて幸せだ。祖母はこの新米を遠くの親戚や知り合いに送る。すると、感謝の言葉が届き、祖母は「よかった、よかった。」と笑顔で話している。作ったお米が、遠く離れたところで、みんなに美味しく食べてもらえて、私もうれしい気持ちになった。それにその喜び顔を見ていて私は、お米や野菜を育てるのは、祖母にとっても生きがいにもなっているのかなと思う。
しかし、祖母は、「いすれ、この田んぼも米農家さんにお任せすることになるかもしれない。」と言っている。お米を育てることの苦労や、続ける難しさはよくとも感じている。でも、祖母にとっても生きがいを失いたくはないし、私自身も家族の田んぼに愛情を持っている。できればこれからも作り続けていければ強く思っている。そのためにも、今までのように農家さんと連携をとったり、家族でできることなど、私も、一緒に模索していきたいと思っている。
今年ももうすぐ稲刈り。新米の時期がくる。足踏み脱穀機も出番を待っている。みんなの思いが詰まったお米一粒一粒に感謝して、これからもおいしくいただきたいと思う。

一関市立室根小学校 1年 道目 晴 さん



どうしゅんとたべるの おいしいな

一関市立室根小学校 1年 道目 晴 さん



校外学習で友達と一緒に弁当を食べた時のことを描きました。お弁当がおいしく見えるように、頑張って描きました。入賞できてうれしいです。



実りの秋に思いを馳せ

一関市立教荘中学校 3年 芳賀 夢唯 さん



お米が大好きという気持ちや伝わるようなと思い描きました。いこの家が農家で田んぼをやっているの、田植えの様子を想像して描きました。入賞できればいいと思っていましたが、優秀賞をとれてうれしかったです。



感謝

一関市立教荘中学校 3年 高橋 紗菜 さん



お母さんが朝早く起きて作るお弁当がおいしく、「ありがとう」という気持ちを込め、お米を作っている人がどのように食べてほしいかを思いながら描きました。前から描く内容を考えていて今回完成させることができた良かったです。



水見半作 ～祖母と一緒に流した汗～



一関市立一関東中学校 3年 千葉 心遥 さん



昨年図画に描いた祖母の水見を、今年は作文で表現しました。祖母との水見を通し、農家さんが飼料米を丁寧に育てていることを知りました。水見についてたくさんことを教えてくれた祖母に感謝の気持ちを伝えたいです。

今に続く私の町の米作り



一関市立藤沢小学校 6年 玉澤 璃知佳 さん



私の住む町には縄文時代から人が住んでいたことが分かっている、お米作りが始まったとされる弥生時代から今まで続いていることは素晴らしいと思い作文に書きました。いつも田んぼではお米がたくさん作られていて、この景色がいつまでも続いていると思います。いろいろ調べたので、頑張ったことが結果に出てうれしいです。

令和の米騒動で考えさせられたこと



岩手県立一関第一高等学校附属中学校 1年 平沢 慶佳 さん



祖母が米作りに励む中「米が不足している」というニュースを見て、「なぜ米が足りないのか」と疑問に思い、世界各国には米生産に対してどのような支援制度があるのかを調べ、感じたことを作文にしました。自分で時間をかけて調べて作り上げた作文が入賞して、とてもうれしいです。

審査講評



作文審査員
岩手日日新聞社 編集局長
菅原 祥 氏

今年も皆さんの作文から、安全・安心でおいしいお米を作っていたいてい農家の方々や身近な人々への感謝がしっかりと伝わってきました。
例年と少し違うのは、小学生も中学生も米の供給不足や価格高騰など、いわゆる「令和のコメ騒動」に触れたものが多かったことです。

新聞、テレビ、インターネットのニュースや暮らしの中で、農業と食生活を巡る問題に関心を持ち、自分で調べ、体験をしながら新たな気付きを得ている姿が想像できました。
鉛筆を握り、文章を書くことで、自らの考えや学んだ知識をさらに深めてほしいと思います。

審査講評



図画審査員
一関工業高等専門学校 非常勤講師
及川 武 芳 氏

今年も一生懸命取り組んだと感じられる作品が多くうれしく思いました。数年間、続けて応募してくれる生徒さんや学級全員で取り組んだり、中学校の部活動で制作したりと、工夫していただきありがとうございます。
例年、この「J Aいわて平泉より岩手県、全国で入賞を果たし、素晴らしい結果を残しています。この地方の児童・生徒さんたちの豊かな感性や表現力、発想力の成果です。入賞された作品は、特に「ごはんお米」との関係をよく考えたものです。

最優秀賞に輝いた一関東中学校の千葉さんは毎年取り組み、その発想の豊かさや観察力、そして高い表現技術力が素晴らしいと思います。絵画を通して心温まる思いを伝えられる、その能力は評価が高いものです。秋田中学校の作品はアイデアの豊かさや表現、技術がしっかりとしたものになっています。小学校では、一関小学校の林兄弟の作品は優れていて感心させられました。学校賞の室根小学校の取り組みは、図画の授業が楽しいと子どもたちが喜んでいる様子が感じられます。応募いただいた学校、先生方に感謝いたします。

誠実な対応ができるように

JAいわて平泉 大東支店 遠藤 真希 さん(23)

大東支店の信用窓口を担当する遠藤真希さんは、今年4月にJAに入組しました。貯金の入出金や定期貯金・定期積金の手続きなどの業務を担当しています。言葉遣いに注意し、来店するお客さまに誠実な姿勢で向き合うように心掛けています。自分のマニュアルを作ることで、種類が多い手続きの内容を理解できるようにしています。「お客さまとコミュニケーションを取る中で、何を求められているのかを理解し、実行できる職員になりたい」と話す真希さん。休日は、趣味の草野球に打ち込んだり、高校時代の友人と遊んだりして楽しんでいます。

未来を担う
JAの笑顔

頼りになる職員を目指して

JAいわて平泉 米穀課 工藤 緑 さん(21)

今年JAに入組した工藤緑さんは、米穀課で米の出庫管理に係る業務をしています。米は大事な商品であるため、品質を落とさないよう丁寧に扱うことを心掛けています。倉庫ではフォークリフトの運転や農産物検査など技術や資格を必要とする業務が多いだけに、できることが一つ一つ増えていくことにやりがいを感じている緑さん。今はまだ生産者から教わるが多いと自分を見つめ、「たくさんの知識を身に付けて、生産者から頼ってもらえるようになりたい」と意欲を示します。休日は、自宅で野球観戦や音楽鑑賞を楽しみ、心身をリフレッシュさせています。



JAいわて平泉の准組合員になりませんか？

地域の皆さまも「准組合員」として、JA事業を利用することができます。

「准組合員は、農業振興の応援団」

農家以外の方も准組合員になることができます。JAいわて平泉の地区内に住んでいる方、組合員の家族としてJAを利用している方、勤め先がJA管内の方などは、JAに出資することで准組合員になることができます。

准組合員として加入手続きをしていただいた方には、**JAオリジナルカレンダー**をプレゼントします。

お問い合わせ JA各支店

LET'S
COOKING

新米のちらし寿司

- ① 米は洗って少なめの水の量で炊飯し、すし酢とAを加えて混ぜる
- ② レンコンは薄いちょう切りにし、酢少々(分量外)を入れた水でゆでて水気を切っておく。ニンジン縦5カ所に切れ目を入れ、薄切りにし、小房に分けたブロッコリーと塩少々を入れた水でゆでてペーパーで水分を取る。エビは背わたをとり、塩・酒(分量外)を振り、下ゆでをして水気を切る。ブロッコリー以外をすし酢少々であえておく
- ③ 干しシイタケは冷蔵庫で一晩かけて戻し、食べやすい大きさにスライスし、戻し汁と砂糖、酒、みりん、3倍濃縮つゆを加えて火にかける。5分ほど煮て水分がなくなったら火を止めてしばらく置いて味をなじませる
- ④ 卵を溶いて、酒、砂糖、塩を加えて混ぜる。卵液は1度こすとよい。フライパンに薄くサラダ油をひいて中火で熱し、卵液の半量を流し入れる。火加減を弱め、ふちが乾いたら、巻いて、火を止める。もう一度繰り返す、出来上がった後細切りにする
- ⑤ ①～④をきれいに盛り付ける

野菜ソムリエプロ
木村 千恵美さん

《材料》約4人分

米……………2合
すし酢……………50ml
ブロッコリー……………1/4個
ニンジン……………小1/2本
レンコン……………50g
すし酢……………少々
むきエビ……………16尾

◎味付け椎茸

干しシイタケ……………3個
戻し汁……………150ml
砂糖・酒・みりん……………各大さじ1と1/2
3倍濃縮つゆ……………大さじ2

◎錦糸卵

卵……………2個
酒……………大さじ1
砂糖……………小さじ1
塩……………少々
サラダ油……………適量
A { 白いりごま……………大さじ1
ちりめんじゃこ……………20g

青葉屋

明治28年に創業した歴史ある菓子店で、和菓子から洋菓子、生菓子から焼き菓子と幅広い種類を取り扱っています。菓子の名前は藤沢町内の地名や行事をモチーフにしたものが多く、毎年8月に開催される「藤沢野焼祭」の名前を冠したまんじゅう菓子「ふじさわ野焼まつり」や、大籠地区の「キリシタン殉教公園」から名前を取ったパイ菓子「キリシタンの里」などがあります。「ふじさわ野焼まつり」や「マロンのきもち」(=写真)に使われる秋の味覚の栗は、自家生産したものを使用しており、店主自ら栗の実がなる樹の管理をしています。虫が発生しないようこまめに樹の周りを掃除することを心掛け、「他の栗にはない、とても豊かな香りが売り」と話します。

3時のおやつから大切な人への贈り物まで、ぜひ青葉屋の菓子をご利用ください。

一関市藤沢町藤沢字町95 TEL 0191-63-2250

営業 8:00～18:30

休 不定休



ふじさわ野焼まつり® 140円(税込)

マロンのきもち® 180円(税込)

キリシタンの里® 240円(税込)



プレゼント！

「SO~JA*E~JA」をお読みになってのご意見・ご感想をお寄せください。お寄せいただいた方の中から抽選で10名様に図書カード(1000円分)を進呈いたします。なお、当選者はJA広報誌「こしえる」1月号にて発表いたします。

応募方法

官製はがきまたはメールにご意見・ご感想と、住所・氏名・年齢・連絡先電話番号を明記の上、下記宛先までご応募ください。

応募締め切り 令和7年11月末

※応募いただいた個人情報は、プレゼントの発送、JA広報誌での紹介にのみ使用させていただきます。

〒021-0027 一関市竹山町7-1 JAいわて平泉 総合企画課
E-mail:kosheru@ja-iwatehiraizumi.or.jp店頭で商品をお買い上げのお客さま
ふじさわ野焼まつり 1個サービス

青葉屋

一関市藤沢町藤沢字町95 TEL 0191-63-2250

※1枚につき、1名様まで、1回限り有効です。(コピー不可)
※このクーポンは料理注文時にお渡しください。

有効期限/2025年11月末まで

使用上の注意

- ☐ このクーポンはご自分で切り取ってから使用してください。
☐ 本券は、他券との併用はできません。
☐ 本券は、換金できません。
☐ 諸般の事情により、クーポン券の利用ができなくなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

JAいわて平泉 So~JA*E~JA

JAいわて平泉広報誌

KOSHERU こしえる

組合員向けに発行しておりますJAの広報誌「KOSHERU(こしえる)」は、JAホームページにてご覧いただけます。地元の農畜産物など、盛りだくさんの情報をぜひご覧ください。

<https://ja-iwatehiraizumi.or.jp>